

## 令和7年 年末市長あいさつ

令和7年の仕事納めにあたり、本年の締めくくりとして、職員の皆さんに感謝の意をこめてお話しします。

本年は、合併20年目という津市の歴史の大きな節目の年でありました。合併20周年を目前にし、新たなステージ、新たな次元へレベルアップする津市への市民の皆様からの期待の高まりに応えるため、期限を迎える合併特例事業債を活用してこれまで着実に進めてきた施策を展開しつつ、同時にその裏側では合併20周年に向けて様々なものを仕込む、あるいは仕込んでいたものをしっかり熟成させる、そのような年となりました。

そして、「こども・子育て政策」「都市づくり」「安全・安心」の3つの政策を柱に、時には部局の垣根を越えて市役所一丸となって取り組んでいただき、市民参画も求めるなど、新たな挑戦をしていただきました。

こども・子育て政策については、こども・若者・子育て当事者が主体となった政策を創造的に推進するため、こどもまんなか社会実現会議を創設し、すでに2つの事業推進会議により事業のイメージを作り上げました。

都市づくりについては、12月21日に津興橋の渡り初めを行いました。津駅は将来像を示すビジョンを策定し、大門・丸之内は土地・建物の活用意向をマッチングさせる取組を開始し、新たなまちづくりへの取組が進んでいます。

安全・安心については、地域防災計画の修正や受援計画の改定、道路啓開計画の策定を実施することで、災害対応力を高めるとともに、香良洲高台防災公園も完成を迎え、より安心して暮らしていただけるまちへと進化しました。

また、物価高騰に対しては、影響を受ける市民や事業者に対し、今何が必要かを考え、支援を重ねてきました。

各分野における取組をしっかりと進めていただいた皆さんのこの1年間の努力に敬意を表しつつ、今年取り組んできたことを振り返りたいと思います。

まずは、こどもが健やかに育つ社会に向けたこども・子育て政策についてです。

こどもまんなか社会の実現に向け、津市こどもまんなか社会実現会議を創設し、こども・若者・子育て当事者の意見をこども・子育て施策に反映させることができる仕組みをつくりました。「お城公園こども遊び場づくり事業」と「久居こどもの遊び場づくり事業」においては、さっそくこの会議の仕組みを活用し、こどもたちや若者の意見を取り入れた整備イメージがまとめられました。

妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援策のさらなる強化に向けては、こども安心サポート任意予防接種費用助成事業を実施し、おたふくかぜ及び季節性インフルエンザ等のワクチン接種への助成を開始しました。

また、妊娠・出産・子育てに対して不安や負担を抱え、日常生活に支援を必要とする家庭に対し、ヘルパーを派遣し、家事や育児等の支援を行う仕組みを創設しました。

さらに、こども誰でも通園制度について、令和8年度からの全国一律実施に先駆け、10月から香良洲浜っ子幼稚園で試行的に実施しました。

子育て家庭への支援及び空き家の利活用の促進を目的に、子育て世帯移住促進空き家活用助成事業を創設し、市外から移住する子育て世帯に対して、市内の空き家を購入する場合の補助制度を設けました。

こどもたちの学習環境の充実に向けては、ボートレースの収益金を活用した学校施設整備基金を財源とし、学校施設改修特別推進事業として、校舎屋上の防水改修などを進めるとともに、小中学校の長寿命化改修や放課後児童クラブの整備にも継続的に取り組んでいます。

国の小学校給食費無償化の動きに先立ち、歳入・歳出を一元的に管理できるよう、令和8年9月からの学校給食会計の公会計化に向け、これまで地域によって異なっていた食材の発注方法や米飯の契約を統一しました。

検討を進めてきた白山地域の小学校の在り方については、住民説明会や検討委員会等での内容をふまえて小学校5校を統合し、大三小学校を大規模改修して令和11年度の開校を目指すことを決定しました。

くらしの快適さを増すための都市づくりも進めました。

津駅周辺整備については、3月に津駅西口駅前広場基本計画、7月には「津駅周辺基盤整備の方向性（ビジョン）」を策定し、各エリアの整備の方向性を定めました。そして津駅東口駅前広場においては、国土交通省の先導的官民連携支援事業補助金を活用し、交通ターミナル整備に合わせた上部空間の活用に向け、官民連携による事業手法等の検討に係る調査を進め、民間活力を活かした駅周辺のにぎわいの創出と地域の活性化を目指しています。さらに、津駅からのラストワンマイルの移動手段の確保と回遊性向上の可能性を検証するため、シェアサイクルの実証実験を実施しました。

道路整備においては、津駅周辺道路空間整備広域ネットワーク構築事業として、津駅前線及び広明町河辺町線の拡幅工事、内多清水ヶ丘線の拡幅工事を進めました。いつくしみの杜へのアクセス道路として整備を進めている半田久居線及び雲出野田線についても、道路新設改良工事が進んでいます。

津興橋は、幅員が広がり両側に歩道のある安全性の高い道路が完成し、12月21日に渡り初め式を実施しました。今後は令和8年中の仮橋撤去や取付道路工事の施工を進めます。

大門・丸之内地区においては、地区の将来的な土地建物活用の促進につなげることを目的に、所有者情報と事業者情報のマッチングを図る大門・丸之内土地・建物活用意向登録システムの運用を開始し、すでに1件の取引が成立しました。津市も参画するエリアプラットフォーム「大門・丸之内 未来のまちづくり」においては、地区内外からの来訪性を高めるための取組として、デジタルマップの作成、公園空間活用実験などを行い、10月25日から11月3日に実施した観音公園での社会実験には延べ10,000人が訪れました。

また、同地区にあるフェニックス通り駐車場を4月1日から民営化しました。所有者は株式会社津センターパレスとなり、営業時間や駐車料金など、これまでと変わら

ないサービス体系で運用がなされています。

津なぎさまちは開港 20 周年を迎え、記念シンポジウムを実施しました。また、津なぎさまちと中部国際空港を結ぶ海上アクセス運航事業については、平成 17 年の事業開始から 20 年が経過し、高速船 2 隻の船齢が 20 年を超えるなか、高速船フェニックスの左舷エンジン故障が発生し、以降、高速船カトトレア 1 隻による減便ダイヤでの運航となりました。フェニックスは売却し、新造船に向けた検討及び代替船舶の運航に向けた準備を進めています。

コミュニティバスについては、令和 8 年度から、それぞれの地域の特性に応じた運行形態で開始する再編案を作成しました。また、JR 名松線が全線開業 90 周年を迎えたことを記念し、12 月 7 日に記念事業を実施しました。

市内 4 か所の公共自転車等駐輪場で 125 c.c. 以下のバイクを試行的に駐車可能にするとともに、桃園駅前の公共自転車等駐車場を集約し、新たに 149 台分の同駐車場を整備し、慢性的に不足していた駐車台数の十分な確保につなげ、住民の利便性を高めました。

快適な施設環境に向けては、芸濃総合文化センター内アリーナ及び一志体育館の空調整備工事に着手しました。来年 3 月の完成を目指し、事業を進めています。

安全・安心のため、よりハイレベルな備えと対応にも取り組みました。

令和 6 年能登半島地震での災害対応の課題を踏まえ、2 月に地域防災計画を修正するとともに災害時受援計画を見直し、全国から駆けつける人命救助等の応援部隊を円滑に受け入れができるよう、広域応援部隊の活動調整や情報共有等について大幅に改定しました。また、災害発生後の速やかな救命・救急活動の展開のため、道路啓開計画を策定し、災害対応力の一層の強化を図りました。

4 月には香良洲高台防災公園が供用開始となり、平時は多目的グラウンドや屋内運動施設など、市民の憩いの場として活用しつつ、災害時には最大 1,185 台もの車が駐車でき、避難場所として活用できる大規模施設が完成しました。11 月には香良洲高台防災公園を会場に総合防災訓練を実施し、行政・市民・防災関係機関が参加する実践的な訓練を行うことで、官民一体となった総合防災力の向上を図りました。

消防力の強化も図りました。中消防署西分署は来年 2 月の完成に向け工事を進めるとともに、鈴鹿市及び亀山市との消防通信指令業務の共同運用については、4 月からの運用開始に向け、3 市による試験運用を始めています。

また、今年度から津市内全ての中学校及び義務教育学校を対象に普通救命講習を実施し、若い世代に救命措置の重要性、知識及び技術を広めることで、市全体の救命効果の向上につなげました。

浸水被害の軽減に向けた雨水対策事業については、半田川田第 1 ・ 第 2 及び藤方第 2 の雨水幹線の整備を引き続き進めるとともに、市内全 188 排水区の浸水想定区域図の作成が完了し、その情報を踏まえた今後の更なる取組につなげていきます。

物価高騰に対しては、物価高騰に直面する低所得世帯を支援するため、住民税非課税世帯への物価高騰対策支援給付金を 1 世帯当たり 3 万円支給するとともに、当該世

帯の 18 歳以下の児童 1 人につき 2 万円の加算給付を実施、加えて、令和 6 年度に実施した定額減税補足給付金事業に対する不足額給付についてもしっかりと対応しました。

また、全ての世帯と事業者への支援として水道料金基本料金を 2 か月分無料化するとともに、医療機関や障害者支援施設、介護保険施設など、各種事業者への支援もきめ細かく実施しました。

さらに、給食食材の高騰が給食の質の低下や給食費の値上げにつながらないよう、保育施設や小・中・義務教育学校に支援するとともに、三重短期大学の学生には学内の食堂や売店で利用できる生協利用券を配付しました。

国の第 2 世代交付金を活用した取組では、総事業費約 48 億円の 6 つの事業が採択されました。こども達のための 4 つの公園整備をはじめとするこれらの事業は、従来のように一つの部局が縦割りで進められるものではなく、建設部、こども・子育て政策担当、総合支所、スポーツや文化財の担当など、関係する部局がしっかりと連携し、また当事者である市民の参画も得ながら事業を進めてもらっています。

久居中央スポーツ公園とお城公園の整備については、誰もが自由に参加できる「こどもの遊び場づくり事業推進会議」の場を設けました。久居中央スポーツ公園の事業推進会議は計 9 回開催、こども 171 人を含む延べ 385 人が参加し、プレーパークなどこどもの豊かな成長を育む遊び場の整備イメージを作成しました。お城公園については、養正小学校でのこども会議 3 回を含む計 9 回の会議を開催、こども 129 人を含む延べ 278 人が参加し、石垣の景色を生かした整備イメージをとりまとめました。安濃中央総合公園や津偕楽公園においては施設の実施設計に向けた取組を進め、千歳山・岩田池公園は、園路の整備を進めました。

地域に活力と魅力を生み出す文化芸術活動活性化プロジェクト事業については、各地域の文化ホールの利活用促進と活性化に向け、まず芸濃地域と美里地域の文化ホールについて、それぞれ 10 月に「みんなで使おう文化ホールプロジェクト推進会議」を実施するとともに、ホール設備の機能強化のため、整備の実施設計が進んでいます。

国のデジタル田園都市国家構想交付金を活用した取組では、改修を進める海浜公園内陸上競技場について、実施設計を行うとともに管理棟の解体を行いました。

地域の未来のための取組も進めました。

森林経営管理事業については、森林現況調査と境界明確化の実施範囲を市内全域にまで広げるとともに、経営管理権集積計画を策定し、それに基づく森林整備を実施して未整備森林の解消に向けた取組を進めました。

地域農業の将来の在り方を明確にする地域計画については、目標の 100 地区全てで策定を完了し、県内最多の策定数となりました。

カーボンニュートラルの実現に向けては、16 のパートナーシップ協定を締結し、2050 年の地域脱炭素を目指しています。

津花火大会では、協賛者招待席・招待ゾーンに飲食物販売と観光案内ブースを設置

し、付加価値を高めました。久居花火大会は、恒例の花火と音楽に加えレーザー光線による演出を初採用し、県内唯一のショーを繰り広げました。

ボートレース津は、恒例の夏休みこども向けイベントとして、8月に体験型ミュージアムの「あそべる恐竜博」を開催、10月には最も歴史のあるSG競走ボートレースダービーを開催し、目標の130億円を上回る売上135億円を達成しました。

組織経営については、職員の不祥事事案の発生を受け、各自のコンプライアンス意識をより高めるため、各所属にコンプライアンス責任者を配置するとともに技能員に特化した研修及び全職員への動画研修を実施しました。また、定期監査の実施においても、より質の高い効率的な監査の実施に向けて、従来の方法を見直し、対面監査と書面監査の併用となりました。

職員採用については、土木職に高等学校の学校推薦枠を新たに設け、学生生活等での取組や成績の評価による採用方法によって受験者の負担を軽減するとともに、優秀な人材を確保するよう努めました。

また、公式LINEの運用を開始し、情報発信力の強化を図るとともに、デジタルフェアを開催し、市民の皆さんのデジタル社会への理解と参加の促進を図りました。さらに府内の事務執行におけるペーパーレス化推進のため、12月から、市議会本会議においてもノート型パソコンの使用を開始しました。

戸籍法改正により氏名の振り仮名が戸籍の記載事項に追加されたことに伴い、津市に本籍がある全ての人に通知書を発送し、届出のための特設会場と案内デスクを設け、迅速・円滑な受付を実施しました。

さらに今年は通常業務に加え、7月には参議院議員選挙、9月には知事選挙、そして5年に1度の国勢調査も実施され、担当部局のみならず、他部局の応援職員も含め、市役所一丸となって業務にあたっていました。

年が明ければ20周年の幕開けです。来年も、市民の皆さんの笑顔のため、挑戦を続け、新しい津市をつくってまいりましょう。

最後になりますが、年末年始は、1年間頑張っていただいたご自身を労り、心身をゆっくりと休めてください。年末年始の休暇期間中にもかかわらず、職務に従事をしていただく職員の皆さんには大変ご苦労をおかけしますが、健康に十分留意していただきますようお願いいたします。

職員の皆さん、そして、ご家族にとって、来年が本年にも増して輝ける1年になるよう心よりお祈りいたします。

1年間本当にご苦労様でした。